

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書(Web 公開用)

申請者(ふりがな)	新谷 里々花(しんが い りりか)
所属・資格(※学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科 修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	2022 年度日本建築学会大会(北海道) 学術講演会
発表者(※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	新谷里々花 佐野友紀
発表題目(※学会発表の場合のみ記載)	VR 環境による展示室の展示配置・鑑賞者密度が混雑感・広さ感に与える影響
発表の概要と成果(抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
【背景・目的】美術館・博物館における混雑緩和や、閉塞感の緩和が必要であると考えた。里見 1) は、博物館展示の重要な 3 つの要素の一つとしてとして、「③効果的な展示方法である」と述べている。このことから、美術館・博物館での展示方法が鑑賞において重要であることがわかる。そこで、上記で述べた混雑の問題を、展示方法の面から解決できないかと考えた。本研究の目的は、展示室の展示配置・鑑賞者密度が混雑感・広さ感に与える影響を明らかにすることである。VR 実験を通して同じ展示室の面積でも、展示配置・鑑賞者密度により混雑感・広さ感が変化すること、及び広さ感が高まると混雑感が低くなることを明らかにする。 【結果】展示室内を VR 環境により再現した今回の実験により、展示配置や鑑賞者密度が展示室内の混雑感・広さ感に与える影響について明らかにすることができた。展示室内周囲の壁面に展示物を配置する条件を統一したとき、中央に展示があるものは混雑感が高まり広さ感が低くなる。また、中央の展示の中でも鑑賞者が被験者の方向を向くような配置にすると、さらに混雑感が高まり広さ感が低くなることが明らかになった。鑑賞者密度と混雑感・広さ感についても関係があることがわかった。混雑感との関係においては在室人数が増えることにより混雑感が高くなることに影響を与えていた。また、広さ感には鑑賞者密度が高まりにより、広さ感が低くなることが明らかになった。	

※無断転載禁止